

「介護保険における情報公開 IT 化」(要旨)

和泉 徹彦

千葉商科大学商経学部非常勤講師
慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科在

電子政府構想が明らかになる中で、福祉関連とくに介護保険に関して具体的な IT 化の方向性が示されていない。サービス利用者本位に介護サービスを選択できるようにするためには、福祉情報システムの活用による利用者アドボカシーが必要である。その前提となるのは情報公開の IT 化であり、あらゆる情報が電子データで公開されていることである。公開された情報をケアマネジャー等の専門家が活用することで、利用者アドボカシーの担い手としての役割を果たすことができる。また、情報公開フレームワークを検討すると情報提供者と情報利用者との間に情報媒介者とフィルタリング機能の必要性を見出すことができる。

目次

- 研究目的・問題関心
- 福祉情報の先行研究
- 介護保険における福祉情報
 - 介護保険における主体
 - 介護保険給付の申請手続き
 - 要介護認定
 - 介護保険と IT 化
 - 介護保険と情報公開・開示
- 電子政府構想
 - 国政レベル
 - 医療における IT 化
 - 電子政府実現への前提
 - 地方自治体の IT 化
 - PFI による情報提供サービス
 - 民間企業が提案する電子政府ソリューション
- アドボカシーとしての情報公開 IT 化
 - 介護保険利用者アドボカシー
 - 高齢者は IT に適応できるか
 - 情報集約・フィルタリング機能を持った組織
- 結論
- 参考文献・資料